



# 2016年度 学校評価

- I 幼稚園自己評価の結果の報告書
- II 小学校自己評価の結果の報告書
- III 中学高等学校自己評価の結果の報告書
- IV 高等学校通信制課程の自己評価の結果の報告書
- V 学校関係者評価の結果の報告書

学校法人 賢明学院

## 1, 本園の教育目標

—豊かな心, たくましく生きる人間性の基礎を育てる。—  
カトリック精神に基づいた教育によって, 神と人々の前で誠実に生き人間味豊かな人格を育てることを目標とする。子どもたち一人ひとりの個性を大切に, 子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出し, 愛する心, 祈る心, 感謝する心を養い, お互いの気持ちを大切にできる子どもたちを育成する。

## 2, 本年度, 重点的に取り組む目標・計画

子どもたちの自主・自立の精神を育てるために, 子どもたちが自ら進んで物事に取り組み, 満足感・達成感を味わう教育を実践する。

## 3, 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
<b>1, 宗教教育</b> <b>祈りとともに育つ。</b>  ○子どもたち一人ひとりを大切にすることによって, カトリック精神を実感できるようにさせる。  ○保護者に教育の方針をわかりやすく伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと仲良くすることで, 喜びや, 人の痛みがわかるように指導する。</li> <li>・皆で静かに手を合わせて祈る習慣をつける。</li> <li>・幼稚園集会, クラス懇談の開催をし, また園だより, 学年だよりを通して日頃の子どもの姿を具体的に伝える。</li> </ul>
<b>2, 自主自立の保育</b> ○子どもたちが自分で選んだ「お仕事」を達成することの喜びを味わせる。  ○子どもが主体的に活動しようとする意欲を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが好きな「お仕事」を選び, 集中して取り組める教育環境を確保する。</li> <li>・子どもたちは友だちとのかかわりの中で, 経験したことを自分の生活に取り入れることによって自主性を育てる。</li> <li>・数や言語の分野においては, 取り組みに差がみられるので, 一人ひとりの興味, 関心, 集中の度合いを尊重しながら指導する。</li> </ul>

<p><b>3, 未就園児クラスの充実と満3歳児保育への移行</b> ○子育て支援について積極的に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児クラスの保護者には子育てサポートを行い、満3歳児の入園時には事前に導入保育を行う。</li> <li>・満3歳児を受け入れることによって、子どもたちの中に新しく加わった子どもに対する気遣いや優しさが芽生えた。</li> </ul>
<p><b>4, 英語教育を通して国際的関心を養う。</b> ○ネイティブの教員を通して英語に親しみ英語がわかる喜びを知る。 ○他国の遊びや文化を知り、国際的関心を育てている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学年の園児も、積極的に参加し、英語の時間を楽しんでいる。</li> <li>・ネイティブの教員から正しい発音を学び、英語の歌をうたったり簡単な挨拶をしたりすることができる。</li> <li>・子どもたちの英語における学習の進歩を、保護者に観ていただくために、行事で英語劇や歌の発表の場を設ける。</li> </ul>
<p><b>5, 教員は資質を向上させるため、研鑽する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モンテッソーリ教育の実践者である講師を招き、研修を行っている。</li> <li>・すべての教員が子どもたちに、教具の提供ができるように学び合っている。</li> <li>・毎日の職員終礼で、子どもの様子振り返り、共有し、保育者としての観察力を高めている。</li> <li>・保育研修委員会を立ち上げ、週に1回実技研修をしている。</li> </ul>
<p><b>6, 保護者への対応</b> ○子どものことに関して親身になって相談を聞く。 ○適切で正確な情報を発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの日々の活動を観察し、保護者との情報交換をできるようにする。</li> <li>・保護者からの相談があった場合には、迅速に対応する。</li> <li>・定期的に保護者との面接をし、子どもの成長を伝えている。</li> </ul>

#### 4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保護者からは英語活動や、宗教教育では高い評価を得たが、基本的習慣の強化や今後の保育のあり方については、検討し子どもの自主性が育つようにカリキュラムを充実していく必要がある。そのための手立てとして、子どもの観察を十分に行い、一人ひとりの発達段階に即した個別の指導を丁寧に行きたい。また、子どもの日々の成長を保護者に報告し、家庭と連携して子どもの成長に即した指導をし、保育の内容の充実を図りたい。

#### 5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自主自立の保育の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが興味をもち、様々な活動に自主的に挑戦しようとする気持ちをさらに育てる。</li> <li>・一人ひとりの成長に沿ったきめ細かい指導を行う。</li> <li>・異年齢のかかわりを充実し「やってみよう」という意欲をもたせ「してあげよう」といういたわりの気持ちを育てる。</li> </ul>
保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものエピソードや、成長の様子を伝え、保護者と共に喜び合えるよう、かかわりを一層深める。</li> <li>・日頃の保育の様子を参観する機会を月に1度、設ける。</li> <li>・参観後には子どもの成長の指標を設けたアンケートを実施し、今後の保育の充実につなげる。</li> </ul>
体力の増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの中で体を動かそうとする気持ちを育てるために、日々の保育で一層運動を取り入れる。</li> <li>・なわとび、マラソンの取り組みを継続して行う。</li> </ul>
宗教教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おつけものデーを通して世界の困っている人に目を向け、いたわりの気持ちをもつ。</li> <li>・創立者の「よいことは何でもしなさい」の言葉を受けて、「私にできるよいこと」を考え、実践する。</li> </ul>

#### 6 学校関係者の評価

別紙の通り
-------

#### 7 学校会計について

監査法人の監査により、適正に処理されていると認められている。
--------------------------------

2016年度 自己評価の結果の報告書

学 校 名：賢明学院小学校

評価責任者：校長 北村 昌江

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
①	カトリック精神の下「宗教教育」の推進と充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>カトリック精神に基づいて心の教育を推進する</li> <li>1) 祈りによって神への畏敬の念を養う</li> <li>2) 感謝の心を育てる</li> <li>3) 奉仕の精神を養う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校児童を対象にマンデーアッセンブリー（全校生対象の宗教的な集い）や児童朝礼で宗教的な講話や指導を行う</li> <li>朝の放送等を活用し、祈りで始まり祈りで終わる礼節を重んじた環境をつくる</li> <li>感謝の心から、人のために働こうとする心の育成を図る</li> <li>他者のために何ができるか考えて、献金活動、清掃活動等のボランティア活動を奨励する</li> <li>式典や宗教行事を通じてカトリック精神を体験させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>神様に心を向け、祈ることができている児童は、低学年90%以上に対し、高学年80%弱にとどまる</li> <li>祈りの集いやミサを大切にしているという児童は、4年生までは90%だが、高学年は70%にとどまる。</li> <li>子どもの心を育てるために宗教教育や行事が効果があると評価している保護者は95%と高い評価をいただいている</li> <li>奉仕の心は、つけものデーの献金活動を始め自主的に熊本震災への義援活動を行う等、子どもの中に育ちつつある</li> <li>上の数値でもわかるように高学年の宗教行事への参加意識が若干低いのが課題である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆目標到達度 100%</li> <li>◆実際到達度 85%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高学年としての自覚を持たせ、率先して奉仕できるように、1年と6年のパートナー制（休み時間や昼食を共にする時間を作る、行事の際6年生が1年生をリードする）を確立し、1年生をサポートすることで6年生の責任感を養う</li> <li>委員会活動を活性化して、自分が学校生活を良くするために貢献していると実感できるように主体的な活動を取り入れる 保護者の期待に応えるためにも宗教教育の推進充実をめざす</li> <li>つけものデーの献金だけでなく、色々な形で奉仕活動を体験させる（校内外の清掃活動、他学年との交流、老人ホームへの慰問等）</li> <li>各式典・行事の内容を、一層魅力的なものになるよう工夫を重ねる その実現のために教職員の共通理解を図る</li> </ul>
②	より充実した学級経営の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師のきめ細やかな指導や子どもに寄り添った学級経営によって楽しく充実した学校生活を送れている</li> <li>個々の違いを尊重し、喜びや痛みを共感する</li> <li>衛生的な配膳を行い、安全な給食を実現する</li> <li>食事のマナーや食に対する感謝の心を養う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導は、チームで取り組み、迅速できめ細やかに対応する</li> <li>子どもを理解するため、実践的な事例から学び、適切に対応する</li> <li>子どもの日々の変化や些細な出来事に目を向け、アンケートも活用して、いじめの早期発見、早期対応、事後観察を行い、再発防止に努める</li> <li>食べ物を大切に扱い、安全に配膳する</li> <li>マナーを守り、楽しく食事することで仲間意識や公共心を養う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生に分からないところを質問できるとした児童は、80%であったが、4・5年生は60%前後にとどまる</li> <li>困ったことを先生に相談することができる児童は、3年生までは75%になるが、4年生以上は50%前後である</li> <li>2回のいじめのアンケートとから、悪口やからかいなどがあると答えた児童が多いので人権の視点からもより一層の指導が必要である</li> <li>9月に給食の見直しをしたところ、給食は美味しいと答えた児童は、今年の45%前後から65%前後に改善され、一定の成果がみられた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆目標到達度 85%</li> <li>◆実際到達度 75%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの主体性を生かす学級経営を行うため、朝の会・帰りの会の日直活動・給食の配膳や清掃の指導をマニュアルを作成して徹底する</li> <li>教員が子どもの良いところを見つけ、学級の中で生かすことで子どもの居場所を作る</li> <li>いじめのアンケート結果を踏まえ、教員間で課題を明確にして対応する</li> <li>食育指導を充実するため、配膳に関するマニュアルを作り、全教員が衛生的な食事環境に一層留意する 食事中は、食物への感謝の心や食事のマナーについても指導する</li> </ul>

③	教師の指導力向上による授業改善	<p>1) 国語算数を中心とした授業力が向上している</p> <p>2) 宿題やノート指導など学習習慣の基礎を強化している</p> <p>3) 覚える英語から使える英語教育へと発展させ、英語力を向上させている</p> <p>4) 情報機器を活用し、効果的な授業が展開されている</p> <p>5) 国際理解教育の一環として日本の伝統文化に触れ、理解を深めている</p> <p>6) 児童自ら考え発言し、互いに学ぶ学習方法を取り入れた授業をしている</p>	<p>・国語・算数の授業力の向上のため、指導教官からの指導のポイントを確認共有し実践する</p> <p>・各教員年1回以上の授業の公開を実施する</p> <p>・学習習慣をしっかり身に着け、宿題忘れをなくす</p> <p>・英語の発表会や英語スピーチコンテストを実施する</p> <p>・タブレットの活用推進、各教室の情報機器環境の充実、プログラミング学習の義務化に向けた試行的な取り組みを実施する(校内研修を実施する)</p> <p>・全学年を対象にした茶道を中心とした礼法の授業を取り入れる</p> <p>・5・6年の剣道の授業を通じて伝統的な精神に触れさせる</p> <p>・人の話を聞き理解する力を育成する</p> <p>・自分の考えを発表して、人と自分の意見の違いに気付くように指導する</p>	<p>・教員全員が授業の公開を行い、先生方の学び合いが実現した</p> <p>・朝読書の実施により、読書の習慣づくりに役立っている</p> <p>・先生が宿題等を丁寧に見てくれると評価した児童は、85%であったが、5年生の62%に課題がある 保護者の評価は90%である</p> <p>・英語で簡単な挨拶ができるとした児童は、80%近くになっており、子どもの英語力に手ごたえを感じている保護者は70%であった</p> <p>・情報機器を使った授業が分かり易いとした児童は85%であった 昨年より低学年の評価がよくなかった</p> <p>・今年度は、6年生の茶道体験を行った。子ども達にも好評であった</p> <p>・自分の意見を進んで発表している児童は、低学年80% 中学年70% 高学年は60%弱にとどまった。保護者の評価は70%程度で、発表力をつける必要がある</p>	<p>◆目標到達度 85%</p> <p>◆実際到達度 80%</p>	<p>・具体的な読書目標を設定し、見通しを立てて児童が計画を立てて読書に取り組めるようにする</p> <p>・来年度も引き続き、教員全員が授業を公開して授業力を一層向上させる</p> <p>・宿題が子どもの学力定着に役立つものとなるように全教員が検討する</p> <p>・宿題の出し方などを点検・工夫する</p> <p>・子どもの英語力強化のために、朝のモジュール学習を実施する</p> <p>・情報機器の活用のためプロジェクトチームを中心に、教材開発、プログラミング教育、宿題をネット上で行う e-learning の条件整備等を行う</p> <p>・国際理解教育の基礎として、現行実施の剣道の他、茶道、俳句・短歌・古典の暗唱、毛筆書写などの学習の充実を図る。特に茶道は好評なので全学年に導入する</p> <p>・主体的・対話的な学びができる授業を取り入れ、朝の会でのスピーチ、生活、総合的な学習でも自分の考えを発表する機会を多くする</p> <p>・論理的思考力を高め、論理的対話ができるように、問答法を取り入れる</p>
④	生活指導の強化	<p>・挨拶をはじめ礼節を大切にす る指導を徹底する</p> <p>・立ち止まって挨拶している</p> <p>・集団での沈黙移動ができている</p> <p>・5分前行動(賢明タイム)を励行し、けじめのある生活をしている</p> <p>・登下校の安全とマナーについて指導し、児童が気を付けて登下校できるようにする</p>	<p>・賢明教育の伝統的な取り組みを実践する</p> <p>・賢明挨拶 Stop Bow and Smile を励行させる</p> <p>・賢明の沈黙移動を実践させる</p> <p>・賢明タイム(5分前行動)を実践させる</p> <p>・通学路や公共交通機関において、周りの方々への気配り、賢明生としての自覚と誇りを持って行動させる【服装・言葉遣い】</p>	<p>・賢明の挨拶は1~4年は90%できているが、高学年は80%にとどまる</p> <p>いつでも、どこでも、誰にでも挨拶できるかが課題として残る</p> <p>・沈黙移動ができているは、高学年で40%にとどまっている。全体としてより一層の指導の徹底が課題である</p> <p>・時間の管理についても 十分とは言えず課題が残る</p> <p>・安全な登下校やマナーは1~4年生は90%以上ができていると答えているが、高学年は80%にとどまる</p> <p>・保護者の評価も児童とほぼ同じ80%ができているとして</p>	<p>◆目標到達度 100%</p> <p>◆実際到達度 80%</p>	<p>・児童会が積極的に挨拶運動を展開し、子ども達が主体的に関わるようにする</p> <p>・「どのような場面でも賢明の挨拶ができる子」を児童会活動の重点目標にする</p> <p>・「授業や行事の際の移動を整然と行う」を全教員の重点指導目標にする</p> <p>・教員が授業時間の厳守、児童の休み時間の確保を徹底する</p> <p>・下校の安全やマナーについて、全校集会や学年集会等で指導する。また交通巡視員等の外部講師を招聘して、児童への指導を行う</p> <p>・保護者にも児童の通学安全確保のため協力を求める</p>

2016年度 自己評価の結果の報告書

学 校 名：賢明学院中学高等学校

評価責任者：校長 大原 正義

	P l a n		Do	C h e c k		Action
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で進める「宗教教育」。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	①1年生の保護者全員に建学の精神や教育方針を説明するため機会を複数回持つ。 ②中学生が心身ともに成長できるよう見守り、相談ができる信頼関係を築く。 ③クラスの中で溶け込みにくい生徒に意識して声かけをする。 ④満足度を上げるためにアンケートの自由記述に応える努力をする。	①高1は90%を超えたが、他学年が80%台と例年より低かった。教育方針を説明する機会が少なかったと考えられる。 ②昨年より5P(ポイント)上がったが、中1が一番低く75%だった。人間関係をうまく築いていく指導が不足していた。 ③中2からは学年と共に到達度が上がり、高3では90%と成長していることが分かる。しかし、全体的には昨年より4Pダウン。 ④どの学年もほぼ80%だが、高1が76%と低く高3が87%と高い。入学した生徒の期待に応える努力をしなければならない。	◆目標到達度 ①95% ②85% ③90% ④90% ◆実際到達度 ①87% ②83% ③77% ④81%	①各学年保護者集会の校長挨拶で、建学の精神や教育方針についてもっと触れていく。 ②中1のHR合宿等で人間関係を築く配慮を担当団を中心に進める。 ③宗教教育や人権学習を通して、相手の苦しみや悲しみに気付ける感覚を養う。 ④学習面の充実がなければ有意義で満足とは感じられないので、学習習慣をつけていく。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①生徒は気持ちよい挨拶が誰にでもできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	①日本一気持ちのいい挨拶ができる学校へ、生徒会とも協力してそれを目指す。 ②具体的に月間目標を決め、ルールやマナーが守れる生徒を育てる。 ③教員の指導が保護者に伝わっていない面もあるだろうから、その伝達も心がける。	①保護者の評価は82%と厳しい。生徒間や生徒と教師は挨拶ができていても、保護者や来校者にできていない数字だ。 ②生徒自身の評価は中学66%、高校75%と昨年よりは多少上がったが、目標までには程遠い。さらなる指導が必要。 ③保護者の評価は中学74%、高校81%。教員の90%台と今年も大きな開きができた。教員の指導が浸透していない。	◆目標到達度 ①95% ②85% ③90% ◆実際到達度 ①82% ②70% ③78%	①生徒会だけでなく、クラブ員が挨拶を率先できるように顧問が指導する。 ②昨年ではできなかった月間目標を決めることを実行し、ルール等を守る生徒を育てる。 ③生徒が変わったと保護者が実感できるように、教員が一つひとつ丁寧に指導を続ける。
3	学習・授業を第一とし、教科力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①チャイムとともに授業が始まり、生徒が授業に集中している。 ②分かりやすい授業のための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	①チャイムが鳴る前に教員が教室にいることを徹底させていく。 ②外部の研修に参加した教員が伝達講習を必ず実施し、情報を共有する。 ③アイキューブカート(移動式電子黒板)を増設したので、それを利用した授業を増やす。	①高3では92%と3年間で全学年を通して初めて90%を超えた。しかし、全体では71%。教員の86%もまだ低い。 ②生徒は授業の変化を昨年より感じているし、教員自身も分かりやすい授業を心掛ける評価は90%を超える。 ③アクティブラーニング(課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び)に対する生徒の評価は54%と非常に低い。教員自身も自分の取り組みは51%しかできていないと評価しているので、今後の研究と実践は急務である。	◆目標到達度 ①95% ②90% ③85% ◆実際到達度 ①71% ②84% ③54%	①教員が100%チャイムが鳴る前に教室にいることを徹底させる。 ②基本である板書について、教員が読みやすい字、分かりやすい説明を心掛ける。 ③教員がアクティブラーニングを取り入れた自分の授業を積極的に公開して、忌憚のない意見交換を行う。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②授業が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	①進路指導は中学から系統的な指導になるよう構築していく。 ②教員が大学入試問題を自ら解き、教科指導力のアップに努める。 ③すべて教科の基本となる国語力を高める方策を考え、実行していく。	①授業に関する項目では生徒の評価は昨年と変わらず80%前後。教員の努力が必要である。 ②まだ数値は低いが、中学77%高校81%と昨年に比べ大きく上昇した。特に高3では89%と全学年通してこの3年間で最も高い。 ③近年で最も評価できる進学実績を上げることができた。生徒のたゆまない努力と共に教師の熱心な指導の結果である。	◆目標到達度 ①85% ②90% ③国公立10名等 ◆実際到達度 ①80% ②78% ③国公立10名	①進路指導に対して生徒個別の目標を定め、それに向けて教員の担当を決め指導する。 ②教員が大学入試問題を自ら解き、生徒が問題に取り組む時に具体的な指導をする。 ③国公立大学の実績を上げるには5教科全ての力をつけるように指導する。
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人で対応するのではなく、チームで対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができている	①初期対応がやはり大きな解決への道なので、問題が起こったら素早く対応する。 ②まず学年団での情報の共有をしっかりと図り、担任不在でも対応できるようにする。 ③管理職への速やかな報告と相談をもれないようにする。	①学校の危機管理や生徒の安全に対する配慮は保護者の評価が92%と高く、信頼を得ている。 ②保護者からの相談に対する対応は83%の評価。今年は昨年の中1や中3のように95%を超える評価を得た学年はない。 ③教員同士の協力という点で生徒の評価が61%と非常に低い。生徒の目にそのように映っていることを反省し改善していく。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③90% ◆実際到達度 ①92% ②83% ③61%	①報連相の徹底と丁寧な初期対応を担当者と管理職が協力して問題解決に取り組む。 ②学年団で情報を共有し、担任を中心にチームで保護者に対応する。 ③教員同士の協力関係を築くために、実務的な内容だけでなく話し合う時間を作る。

	P l a n		Do	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
6	生徒を大切にすることを やかで温かい生徒対応 をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送って いる。 ②生徒が素直に教員の指導を受け 入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居 場所がある。	①教員が生徒一人ひとりの表情を見、こま めに声かけをしていく。 ②生徒が納得する論ず指導をさらに徹底さ せる。 ③他者と打ち解けにくい生徒に対して、教 員が仲間の輪に入れるよう配慮していく。	①良い友人関係を築けているかという項目の評価は、中学高校と も89%と高かった。良い友人に恵まれている生徒が多い。 ②丁寧な言葉使い等を心掛けているが教員90%であるが、日常の 場面でもっと意識していかなければならない。 ③居場所があるかは中学85%高校91%で、学年が上がることにこ の数値が増えていくのは喜ばしい。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③95% ◆実際到達度 ①89% ②90% ③88%	①教員が生徒の小さな変化も見落とすことな く、気にかかればすぐに声かけをする。 ②生徒に尊敬される教師になれるよう、まず服 装、言葉遣い、笑顔を意識する。 ③教員が生徒の人間関係をよくつかみ、必要な 時に適切なアドバイスをする。
7	生徒会活動が生徒たち の自主的な活動の場 になるよう指導する。	①生徒はクラブ活動・委員会活動に 積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど 他者に目を向けられている。 ③クラブ指導が活発で、生徒も生き 生きとしている。	①生徒たちが達成感を感じられるような具 体的な目標を決め、教員も協力していく。 ②通学路の清掃などすぐ実行できるものに 取り組む。 ③本校のクラブ活動の在り方を教員がまず 理解し、それに沿った指導をしていく。	①生徒自身は中学78%高校85%と評価。今年も高3の評価が最も 高く、引退まで熱心に取り組んだと評価したい。 ②中学49%高校56%という生徒自身の評価は残念な数値だった。 一部の生徒しか取り組んでいない現状である。 ③クラブ活動が楽しそうかという保護者の評価は78%、昨年とほ ぼ同じだった。また、今年は何の学年もほぼその数値だった。	◆目標到達度 ①95% ②90% ③85% ◆実際到達度 ①82% ②53% ③78%	①秋麗祭の内容を生徒が達成感をより得られ、 より文化的なものに変更する。 ②学年、クラブ、自由参加のボランティアの機 会を増やしていく。 ③それぞれのクラブに合った練習時間、内容、 施設を見直し、本校らしいクラブ活動にする。
8	大学入試改革や新指導 要領への対応をいち早 く取り組んでいく。	①情報の収集や対応がいち早くな されている。 ②新しい取り組みがなされ、授業が 進化している。 ③学院全体の教育が系統的に行わ れている。	①新指導要領の情報収集と研修会等への参 加と伝達講習を確実に実行する。 ②核となるグループを作り、教科のアクテ ィブラーニングや総合的な学習において 他校にはない魅力を作っていく。 ③宗教・英語の授業や海外研修の内容を小 学校と連携を取りながら見直す。	①研修した内容を他の教員と共有しているかについて、教員自身 の評価は63%と大変低い。真剣な取り組みが必要。 ②改革に向けて自ら学ぶ点に関して、教員の評価は69%と低い。 すでに自主的なグループが研鑽を始めているが、今後はその輪を 広げ全員が取り組んでいく。 ③英語の連携は多少進んでいるが、宗教に関しては進展がなかつ た。今後、「特別な教科 道徳」も始まるので研究が必要。	◆目標到達度 ①85% ②85% ◆実際到達度 ①63% ②69%	①新指導要領への移行を各教科で進め、先行実 施できるように準備する。 ②生徒が自主的に予習復習できる本校独自の 動画教材「アイキューブ・ムービー」の充実を 図り、本校の特色とする。 ③キリスト教価値観を「特別な教科 道徳」の 中にどう取り入れるか検証する。

2016年度 自己評価の結果の報告書

学 校 名：賢明学院高等学校 通信制課程

評価責任者：校長 大原 正義

	P l a n		Do	C h e c k		Action
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で進める「宗教教育」。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	①保護者全員に建学の精神や教育方針を説明するため機会を複数回持つ。 ②心身ともに成長できるよう見守り、相談ができる信頼関係を築く。 ③相手の息災に応じて声をかけたり、自分の持っているものを分かち合う。 ④満足度を上げるためにアンケートの自由記述に伝える努力をする。	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価 ABの肯定的評価89%が建学の精神教育方針が理解している。11%のあまりあてはまらないの評価を改善する必要がある。 A=44% B=44% の肯定的評価が88%となった。不登校生徒や不安を感じる生徒の居場所づくりを全体で取り組む必要がある。 ABの肯定的評価が89%である。多くの課題を持つ生徒が多いことを踏まえ、思いやりのある生徒育てる指導をしていく必要がある。 生徒の評価は66%とやや低い。今後一層の指導体制を整備していかなければならない。	◆目標到達度 ①90%②90% ③90%④90% ◆実際到達度 ①89%②88% ③89%④76%	・保護会を開催や保護者参加型の特別活動を取り入れるなど通信制課程の教育活動について保護者への理解を深める必要がある。 ・三者面談や個人面談の回数を増やし、生徒・保護者にとって相談しやすい環境づくりをしていく必要がある。 ・スクーリングやレポート、テスト以外の教育活動においても教職員の共通理解を深める。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①賢明の生徒は挨拶が良くできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	①日本一気持ちのいい挨拶ができる学校へ、生徒同士が協力しする。 ②具体的に目標を定め、ルールやマナーが守れる生徒を育てる。 ③教員の指導が保護者に伝わっていない面もあるだろうから、その伝達も心がける。	ABの78%肯定的評価が挨拶が良くできていると答えている。日本一を目指して日ごろから挨拶指導をする必要がある。 教員の指導が浸透しており100%の肯定的評価を得ることができた。A評価の22%を高めていけるよう指導していく。 88%が生活指導を行っている。次年度以降は90%の結果を残せるよう全教員で取り組んでいく。	◆目標到達度 ①90%②90% ③90% ◆実際到達度 ①78%②100% ③88%	・学校説明会などの参加者に対して元気よく挨拶ができるよう指導し、また教職員自らが生徒に対して挨拶していく。 ・全日制に準ずる規則があることを念頭に、ルールを守れる生徒指導を実行していく。 ・生徒の個々に応じた対応を心掛ける。
3	学習・授業を第一とし、教科力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①開始時刻とともにスクーリングが始まり、授業に集中している。 ②分かりやすいスクーリングのための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	①開始時刻前に教員が教室にいることを徹底させていく。 ②外部の研修に参加した教員が伝達講習を必ず実施し、情報を共有する。 ③アイキューブカート(移動式電子黒板)を増設したので、それを利用した授業を増やす。	100%の結果となった。単位修得のために重要な要素であるため、どの教員も意識が高いことがわかる。 肯定的評価が100%の結果となった。生徒の理解度を確認しながらスクーリングなどを進めていく。 課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(アクティブ・ラーニング)については生徒78%と保護者67%やや低い結果となった。学習成果を残すためにも今後の活用の仕方を対応していく必要がある。	◆目標到達度 ①90%②90% ③90% ◆実際到達度 ①100%②100% ③73%	・スクーリングは単位修得にとって重要な時間となるため開始時刻については徹底して順守していく。 ・スクーリングについては各科目によって規定回数異なるため、回数が少ない科目については更なる工夫が必要である。 ・全日制と同様にアイキューブカートの導入など生徒の興味関心を高める計画をしていく。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②学習活動が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	①進路指導は入学(転入学)時から系統的な指導になるよう構築していく。 ②教員が大学入試問題を自ら解き、教科指導力のアップに努める。 ③すべて教科の基本となる国語力を高める方策を考え、実行していく。	79%の肯定的評価のため、次年度以降は資格取得や模試受験など進学に対する意識を高めていく必要がある。 学習サポートを進学につなげるために66%の肯定的評価を上げる必要がある。学習サポート日のあり方を検討する必要がある。 卒業生の3名は、希望する大学へ進学することができた。教職員評価ではB評価が100%であった。	◆目標到達度 ①90%②90% ③90% ◆実際到達度 ①79%②66% ③88%	・進路指導について1年次生からスタディサポートを導入するなど進路に対する意識を高めていく。 ・進路に対して個別の目標を定め、適切な指導をしていく。
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人で対応するのではなく、教職員全員で対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができている	①初期対応がやはり大きな解決への道なので、問題が起こったら素早く対応する。 ②まず教職員間での情報の共有をしっかりと図り、担任不在でも対応できるようにする。 ③管理職への速やかな報告と相談をもれないようにする。	教職員は保護者からの相談について適切に対応しているではA89% B11%であった。人数が増えても対応を迅速にしていく。 教職員でA17% B67%とおおむね良好な結果である。C17%を肯定的評価になるよう連携を深めていく。 肯定的評価100%であり、通信制のみでなく学院全体で生徒指導について取り組んでいる結果である。	◆目標到達度 ①90%②90% ③90% ◆実際到達度 ①100%②84% ③100%	・生徒指導面においては担任だけでなく全教職員で取り組んでいく。 ・兼務の教職員にも報告できるよう専任・兼任の打ち合わせ会を毎月1回実施し、生徒一人ひとりについての理解を深めるよう努める。

	P l a n		Do	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
6	生徒を大切にすることをこまやかで温かい生徒対応をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	①教員が生徒一人ひとりの表情を見、こまめに声かけをしていく。 ②生徒が納得する論ず指導をさらに徹底させる。 ③他者と打ち解けにくい生徒に対して、教員が仲間の輪に入れるよう配慮していく。	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価 様々な事情を抱える生徒が多いなか 85%の結果となった。C14%の結果を改善するよう行動していく必要がある。 カウンセリングマインドを取り入れた指導体制が A67% B33%と教員の意識は高い。 肯定的評価は 77%であるが、C22%の生徒結果が出ている。生徒一人ひとりに応じた指導をしていく必要がある。	◆目標到達度 ◆実際到達度 ①90%②90% ③90% ①85%②100% ③77%	・通信制の指導にとって生徒を大切にすることをこまやかで温かい生徒対応をすることは最重要であることを認識し、細かな変化などを見逃さない。 ・電話連絡や手紙などを通じて保護者との連絡を密に行い管理職へ報告する。
7	特別活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒は特別活動に積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。 ③特別活動が活発で、生徒も生き生きとしている。	①生徒たちが達成感を感じられるような具体的な目標を決め、教員も協力していく。 ②通学路の清掃などすぐ実行できるものに取り組む。 ③本校の特別活動の在り方を教員がまず理解し、それに沿った指導をしていく。	55%という残念な結果となった。活動内容の見直しや事前指導の充実など、計画段階からの研究が必要である。 44%の非常に低い結果となった。生徒全員で取り組める活動を検討し実施していく必要がある。 保護者の評価も 66%と低い。生徒、保護者ともに特別活動について意識を高めていく必要がある。	◆目標到達度 ①90%②90% ③90% ◆実際到達度 ①55%②44% ③66%	・特別活動は生徒のコミュニケーション能力を高めたり、友達づくりのきっかけとなった。そのため一部の生徒のみが参加するのではなく、より多くの生徒が参加しやすいよう活動内容や事前指導などを早急に検討する。 ・保護者への連絡も時期を早くするなどの工夫をし参加率を上げる。
8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組んでいく。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。 ②新しい取り組みがなされ、スクーリングや進路指導が進化している。 ③学院全体の教育が系統的に行われている。	①新指導要領の情報収集と研修会等への参加と伝達講習を確実に実行する。 ②核となるグループを作り、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）や総合的な学習において他校にはない魅力を作っていく。 ③宗教・英語の授業や教職員研修の内容を全日制課程と連携を取りながら見直す。	研修内容の伝達体制が肯定的評価が 67%である。生徒指導、教務などの研修において共通認識を持つためにも伝達を確実に行う。 教職員の意識は 83%とおおむね良好である。課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）については具体的な取り組みが見られるように各担当において研究をしていく必要がある。 英語については専任の教員 2 名にて取り組んだため多少進んだように思える。宗教については宗教部との連携が必要である。	◆目標到達度 ①90%②90% ◆実際到達度 ①67%②83%	・新学習指導要領への移行を行う上で、各教科での課題を明確にし、先行で実施できるようにする。 ・大阪府認可の通信制高校との連携を密にし、新たな取り組みについて意見交換するなかで賢明学院にとってふさわしい学習を検討していく。

平成28年度（2016年度） 学校法人賢明学院 学校関係者評価の結果の報告書

委員名	小上 廣之	嶋田 豪洋	辻井 宏之	鶴坂 貴恵	藤木 利典
実施日	第1回 5月28日（土）	第2回 8月27日（土）	第3回 12月3日（土）	第4回 2月18日（土）	

	重点目標について	目標達成の為の取組について	到達度及び自己診断結果について	今後の改善方策について
幼稚園	「未就園児クラスの充実と満3歳児クラスへの移行」は一貫した幼児教育の為に重要である。	「子育てに不安を抱いている保護者に適切な助言をする」とあるが、幼稚園教諭の範疇を越えていないか。未就園児クラス設置の趣旨はどこにあるのか説明して頂きたい。	HPや園だより等の情報発信源に対する低評価が続いたが、前年の学校評価で見守りカメラ導入等の改善計画を知り、非常に高く評価した。しかしそれが未だ実行されていないのは残念である。年度内の運用実施を願う。	「子育ての相談を受けることができる」の項について、満足度の向上の為には、外部の専門家の任用等が必要ではないか。
小学校	「宗教教育の推進と充実」はカトリック学校として最も重要な点であるので、具体的な成果を期待する。	重点目標②いじめ問題の解決にこそ、カトリック学校の特性が生かされるはずである。徹底した研究を望む。	「先生に困った事を相談できる」「わからないところを質問できる」の項について評価が良くない。子どもにとって最も重要な事項であり、早急な改善を望む。次年度は少なくとも目標数値を上回るようにして頂きたい。	①「宗教教育の充実」において、校外でのボランティア等を具体的改善方策に挙げておられる。 OBや保護者のネットワークを使えば容易に実現できる事もあるので、ぜひ協力を要請ほしい。喜んで協力して頂けると思われる。
中高	「大学入試改革や指導要領への対応」は、今後の最重要課題である。多くの情報と具体的な取組についての開示を願う。	大学入試改革に対する「目標達成の為の取り組み」において、海外研修や宗教教育が挙げられているが、具体的に新入試制度や新指導要領とどのように結びつくのかを説明する必要がある。	「大学入試改革」に対する教員の意識がアンケート結果の上では低い。しかし、雲を掴むような改革について、改革に対する自己評価が高い事は考えられないため、逆に意識が高いからこそ満足度が低いのであろうと思う。次年度以降は具体的な取組の成果が数値に現れる事を期待する。	進学実績の向上は、教育の成果を図る大きな指標である。2016年度の実績は大きく飛躍したと伺い、大変喜ばしい。制度改革後も努力を続け、一層の成果を出して頂きたい。
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年同じような目標を掲げるなら、どのように改善されているかと言う変化をグラフ等で可視化出来るようにして頂きたい。</li> <li>・自己評価の結果明らかになった課題について、解決を阻む要因を分析して明確にする必要がある。</li> <li>・大学入試制度の変更は保護者にとっても重要な関心事であるので、幼小中高の保護者全員で情報を共有することが出来れば、一貫教育のメリットが生かせるのではないか。</li> <li>・子ども達の奉仕の心を育むだけでなく、保護者にもそうした精神を発揮できる場を設けて頂きたい。（バザーの代わりになるものが必要である）</li> </ul>			